

Boot-Leg. EFFECTORS

HAND MADE IN TOKYO, OSAKA

<GHP-2.0、RRP-1.5の開発について>

もともとブートレグハンドメイドエフェクターズのエフェクター設計は、細部に渡り完全なハンドメイドが前提となります。しかも、特定の熟練した技術者のみか組み立てメンバーに限られるため、生産場所や工業生産するための再現性を高めるなど意図する必要があるのです。従って、回路構成・基板パターンやケーブルのとりまわしに多少変則的な部分があっても、それが結果としてノイズの軽減や良い音に貢献しているのであれば、組み立ての手間よりサウンドを優先しています。先に洗練した回路にしたり、後から電気的に同じだからという理由で優等生的なパターンに変更してしまうことで発生する音の変化は敬遠し、いい意味で普段からリラックスした設計を心がけています。また、如何に部品点数を少なくするかに注意を払った設計も心がけております。ゆえに、出荷とは直接関係の無い事象に気がとられず、プレーヤーが求める道具として成立するエフェクターかどうかに注力した設計に集中できるのです。もちろん、従来機のGHP-1.0、RRP-1.0はそんな思想で設計されています。しかし、今回バージョンアップ設計をするとなった新機種「GHP-2.0」「RRP-1.5」は先代の機種名「GHP」「RRP」を冠するからには、その音はカチンとしてかつ凌駕するものでなくてはならない……これが「設計開発上」の暗黙の了解でした。

今回の、バージョンアップの目的は、弊社の記念すべきタイミングに、貴重なご意見を頂戴した多くの既存のオーナー様からのリクエストにお答えすることです。そのリクエストは、両機種に「実戦的なトーン機能を搭載して欲しい」という内容でした。それは、弊社にとって非常に意味深い人気モデルの名称が冠するだけに、どんなに良い音が出る商品の設計が出来ても、元機種の音が出せればそれでいいわけではなく、モデル名とご意見を下さったオーナー様にとってバージョンアップの意味が無いと、メーカーとしての使命も感じました。

さて、一口にトーンといっても、そのトーン回路には様々な方式が存在します。ハッシュ方式、アクティブ方式、さらにそれ以外の方式の中に、様々な電気回路上の分類もありません。ハッシュ方式の回路は非常にシンプルですが、その前後の回路の影響を非常に受けやすいという弱点があります。ま

たどんなに工夫をしても、トーン全開時でも、ほんの「わずか」に影響を受けてしまうという問題もあります。その点アクティブ方式は、ハッシュ方式の弱点はほぼ補うことが出来ます。しかし、ノイズの増大という音楽的に非常にリスクの高い増幅要素を通過させるため、どうしても原音に色づけが発生するのだと、意図しない変化が起こってしまうという危険性もあります。前出のような問題をユーザー様に受け渡したくないという切なる願いから、約4年半のという長期間にわたって、GHP-1.0の元回路をベースに様々なトーンの回路を追加し、その都度音質チェックを行うという気の遠くなる地道な努力を繰り返しました。しかし、どのトーン回路のどのポジション(例えば全開にしても)でもGHP-1.0と同じ音を含む、カバーする音は得られませんでした。トーン回路が追加されて電気的に何らかの部品が接続されている時点で音声信号の流れが変化してしまい、残念ながら曇りの無い音には到達できなかつたのです。バージョンアップの企画当初は、意外と簡単にオーナー様の求めるリクエストにお答えできると思っていたけれど、目の前に立ちはだかった壁はゆるく、そしてスリッリとその厚みを増していったのです。例えばオリジナルのGHP-1.0の音色をアナログ的にキャプチャーし、ハッシュ方式の信号を増強すれば、トーン回路の電気的負荷に負けない方法としては、一般的にも有効な方法と考える得るでしょう。早速その方法でプロトタイプを製作しましたが、最終確認のサウンドチェックでNGとなってしまいました。NGの理由は、いくら信号を増強しトーン回路の負荷に負けないようにしてもトーン全開=原音100%にはならなかつたからです。しかも、どうしても追加した回路が音色の色づけをしてしまい、GHP-1.0特有の生々しいクラッチ音が薄くなってしまったからです。前出機種のGHP-1.0は、ゲイン増大+ダイオードの波形クリップでクラッチ音を作っているではありません。ダイオードクリップ方式の歪みマシンの場合は、その音色はダイオードやコンデンサなどの組み合わせにより、比較的に「元の再現」しやすいものですが、GHP-1.0の場合は増幅素子の限界領域での動作により歪み音が発生させている為、トーン回路は想定よりもかなり「ゆとり」のある設計にしないとクラッチ音を100%受け止めることが出来なかつた

のです。そこで、設計を原点に戻し、全く異なるアプローチでクラッチサウンドを追求した「新GHP-2.0」の創出も試みました。その結果、非常に優秀な歪み音をたたき出すマシンのプロトタイプが一旦完成しましたが、新たなGHPシリーズの求める「トーン全開時にGHP-1.0と同じ音が出ること」には達成できず、またもNGとなりました。

余談ですが、その過程で出来上がったプロトタイプのサウンドは新たな「道具」としての可能性が見出されたため、後に改良とブラッシュアップを経てEdgeWild(EDW-1.0)の原型となりました。今回のリクエストとは別のよくあるご意見に対応できるダウンチューニングプレイに適したブースターとして好評を頂戴しております。

話しは戻り、様々なトライと時間を経て、ついにエフェクター史上を覆す「トーン回路分離」というコンセプトの的的な「最もシンプル」かつ「問題をクリアできる」唯一無二な発想にたどりついたのです。それはトーンのマシンのスイッチを設け、トーン回路を電気的(物理的)に切断することにより実現する実にナイーブな手法です。この方法なら「トーンをOFF」「トーン無し」と同じように完全にGHP-1.0オリジナルの音色を確保できました。また、トーンOFF時のみでなく、トーンが有効なときも、非常にシンプル回路を維持出来るので、本来のサウンドメイキング以外の濁った成分が回路に入り込んで来る余地が無いのです!!

こうした設計の苦労と努力により、ようやくGHP-1.0のオリジナルサウンドを完全に再現しながらトーンを変化させることに成功したのです。この発想に到達してからは、非常にスムーズに設計が進行しました。しかも、この手法は、RRP-1.0のバージョンアップモデル「RRP-1.5」にも完全に移植することができました。これでブートレグならではの必要以上にセオリーにとられない設計・極力シンプルトーン回路の維持にも成功したのです。もちろん、音質を最優先しておりますので、念入りに部品の定数を絞りこみ、回路に独自のエッセンスを加え、サウンドチェックを重ねた末に、最終完成形が完成しました。こうして今回、15周年という記念すべきタイミングでリリースする GHP-2.0、RRP-1.5のサウンドは生まれたのです。

—メーカーサイドよりバージョンアップの理由—

まず、GHP-1.0が弊社の記念すべきリリースモデル第1機種目であるということ。そして、エフェクターの筐体にカラーデザインを大胆に施した世界初のモデルがRRP-1.0であるということ。

—ユーザー様のご意見を大切に—

カタログにも記載してきたように、弊社はギターを弾く全てのプレイヤーの味方です。それは、プロギタリストだけでなく幅広いエンドーザーの皆様から頂いたご意見もきちんと聞き入れて開発の参考にする姿勢だからです。記念すべきタイミングに、オーナーの皆様から頂いたリクエストで一番多かったご意見と、弊社の社歴の重要モデルをバージョンアップという形でリンクさせました。

—Switch Tone方式の搭載—

GHP-1.0もRRP-1.0は現在でも途切れることなく出荷をさせて頂いているほど、ギタリストの皆様には支持を頂戴しております。しかし、複数のオーナー様よりお電話やメールで「TONE」をコントロールしたいというご意見を頂戴しておりました。開発サイドとしては、例えばRRP-1.0の設計時の記録には回路決定の最終段階で、およそ250回もの気の遠くなるようなサウンドチェックをした記録が残っているほど、入念に完成を目指しています。そこに、出来上がったサウンドに十分な自信があるため製品化に至る訳ですが、上記のようなリクエストが複数のオーナー様より届く……単純にトーン回路を追加するとせっかく追い込んだサウンドをロスしてしまう。しかし、オーナー様のご意見も反映させたい。

—結論—

GHP-1.0はGAINをゼロ、MASTERをフルに設定した場合のオンとオフのサウンドがほぼ同じなところが微妙な設定が可能という部分に多くの支持を得ています。RRP-1.0は爽快で乾いたストレートなオーバードライブサウンドに多くの支持を得ています。しかし、単純にトーンを追加してもどうしても高域にあまさが出て、初号機に胸を張っている弊社としては辛いところです。その結果、初号機のサウンドをそのままに、トーンを追加するシステムを開発しました。音は現物をお聞きいただくしか方法がありませんが、成功しました。

GHP-2.0 -> 特にハウリングに対するトーンを実現
RRP-1.5 -> 特にブースターとして使用した場合にトーンを絞ると太くなります。

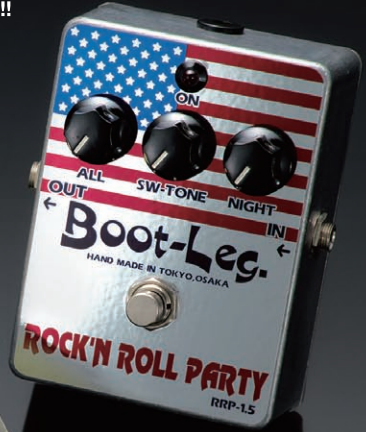
これらを実現したのが「SWITCH TONE SYSTEM」です(実用新案申請中)通常の回路からトーン部分を完全に切断する事により実現したシステムです。是非、お試しください。



Gain Helper GHP-2.0 25,200yen(Include Tax)



ブートレグハンドメイドエフェクターズ発足15周年を記念して、かねてからユーザーの皆様よりリクエストの多かったご意見を参考に完成させた、まったく新しい発想のSWITCH TONE SYSTEM(実用新案申請中)を搭載した、ニューモデルをバージョンアップにて2機種同時リリース!!



Rock'n Roll Party RRP-1.5 25,200yen(Include Tax)

Gain Helper ノンクリップが実現するクリーン〜ブースト



ロングセラーを記録する「ゲインヘルパー GHP-1.0」は、現在も様々な環境に適用することが可能なゲイン補正を目的とした1台です。通常の歪み発生マシンとは、一線を画した設計となっており、いわゆるダイオードクリップは採用しておりませんので、ハイ落ち及びロー落ちとは無縁となりました。従って、全くの無歪みの状態から心地よいクラッチサウンドまでの原音を尊重したゲイン補正が可能なのです。クリーンサウンドで使用するならば、ピックアップの信号をコントロールし、ハイとミッドを与えて下さい。この場合、接続順は1番最初にお願います。踏みっぱなしにすることで、ワウラック上のサウンドをお届けします。ドライブアンプに接続するならば、粘りとサスティーンを与えて下さい。ブースターとしてご利用いただけます。この際、ノックアップならは太くてもさらびやかなブーストサウンドを体験できます。ノンクリップだからこそ、ウッドマテリアルやビックアップの持ち味を損なうことなくゲイン補正の効果を発揮できるのです。また、単体の歪み率が低いので、ごく浅めの絶妙なセッティングで、隠し味的な単体のサウンドメイキングも可能です。かなりのビッキングテクニクは要求されますが、ペットネームの通り、ゲインヘルパーは、ブルース・ジャズ・フュージョン・ハードロックetc...と、日々刻々と替わる様々なジャンルのゲインをヘルプします。

GHP-1.0 18,900yen(Include Tax)

■電源:006P(9V) / ACアダプター ■入出力端子IN-OUT-DC入力端子(DC9V) ■入力インピーダンス:1MΩ
■推奨出力負荷:10KΩ以上 ■消費電流:9mA ■外形寸法:82(W)×110(D)×44(H)mm ■重量:350g

Rock'n Roll Party これぞオーバードライブ



「ロックンロールパーティー RRP-1.0」は、純粋なオーバードライブとは一体何なのか……という素朴な観点から開発が開始されました。それは、オールドの真空管アンプをフルアップさせた時に得られる甘く、太く、抜けるいいサウンドの再現はもちろんのこと、よくありがちな、ハイ落ち及びロー落ちを克服し、ブースターとしての機能も申し分なく持ち合わせているマシンの完成ということでした。現代のディストーションとオーバードライブの位置づけは、非常に混沌としておりこれは、ソフトなディストーションなのか、これは、ハードなオーバードライブなのかというところが、明確にプレイヤーに伝わらないようです。しかし、このロックンロールパーティーは、先述にあるような曖昧さを撤廃し、徹底したエフェクトとしての「真のオーバードライブ」の完成に努めました。その結果、正確なビッキングが出来ていないと、全く使えないのではないかとというほど、チューブサウンドに肉迫しました。絶妙なフィンガーワークを表現できるこれぞオーバードライブなのです。是非、大音量でプレイして下さい。にじみ出る本当に太い低音と、表情をつけるには充分すぎる、繊細かつパンチのあるアタック感を体験できます。また、抜けるよいブースターとしてもお使いいただけます。

RRP-1.0 24,150yen(Include Tax)

■電源:006P(9V) / ACアダプター ■入出力端子IN-OUT-DC入力端子(DC9V) ■入力インピーダンス:470kΩ
■推奨出力負荷:10KΩ以上 ■消費電流:6mA ■外形寸法:82(W)×110(D)×44(H)mm ■重量:350g

JAZZ FUZZ

ディストーションライクな扱いやすいファズ

「ジャズ ファズ JZF-1.0」はエレキギター・エレキベースの両方に「使える」ファズです。開発コンセプトは、中低域のV/Oを重視したエレキベース用として着手したのですが、多くのギタリストからも、扱いやすいファズを!!... という声が多かったため、この「ジャズ ファズ JZF-1.0」の設計が始まりました。問題解決の簡単な例としては、一般的なファズのように、ツマミのある部分から急にファズとなったり、無変化する方が多い...等の問題を解消するなどでした。そして使用感の課題の多くが、極めてきめの細かいセッティングの可能なディストーション系のファズに仕上げたという事でした。そんなリキエトを元に仕上がったサウンドは、他に類を見ない独特なファズサウンドを提供してくれます。特に2.3弦あたりのダブルチューニング等の妖艶とも言える絶妙な音の混ざり具合は、オーバードライブやディストーションには決してまねのできない音です。また、特筆すべき点は、新開発の「VINTAGE」コントロールです。これは一般的なカットオフではなく、60年代や70年代当時の現行ギター及びアンプで録られていた音を、現在のギター及びアンプを使用して、ビンテージファズサウンドを再現するためのコントロールです。この「VINTAGE」コントロールの設定次第では、メタリックなファズサウンドからとにかく太いファズサウンドまでをカバーすることができます。当然、全て左へ回しきっても、こもりたてて使えないという事はありません。ハイゲインアンプのプースターとしてお使い頂くと、他に形できない太いソリッドな低音を創れます。上質な使いやすさを追求したファズが、この「ジャズ ファズ JZF-1.0」です。

JZF-1.0 25,200yen(Include Tax)

- 電源:006P(9V) / ACアダプター ■入出力端子:IN-OUT-DC入力端子(DC9V) ■入カインピーダンス:1MΩ
- 推奨出力負荷:10KΩ以上 ■消費電流:5mA ■外形寸法:82(W)×110(D)×44(H)mm ■重量:350g

Rock'n Roll Party

ユニオンジャックドライバー

エフェクターとしてのオーバードライブ...そんなカテゴリーから一歩先を行くアンブラクなオーバードライブマシン。ロックンロールパーティーのニューバージョンの登場です。前作の「ロックンロールパーティー RRP-1.0」は純粋なオーバードライブの完成を目標にサーキットデザインが施されたわけですが、もちろん本作も組み込まれたドライブサウンドを放ちます。オリジナルの真空管アンプをフルアプされた時に得られる甘く・太く・抜けるようなサウンドの再現はもちろんのこと、よりあがりな、ハイ落ち及びロー落ちを克服し、プースターとしての機能も申し分なく持ち合わせているコクのあるサウンドが特徴です。例えば、RRP-1.0をアメリカンなサウンドと仮定すると、RRP-2.0はまさにブリテンサウンドの王道です。RRP-1.0との決定的に異なる部分はよりプレイヤーの感性をより表現しやすくするための「VINTAGE」コントロールを追加した点です。一般的なカットオフのトーンコントロールとは異なり、絞り込んだ場合にも埋もれることなくハイを残し、まろやかに太い低音を出します。この「VINTAGE」コントロールによって、マッチするジャンルが格段に広がりました。それゆえプースター機能も、よりプレイヤーの好みを反映することに成功しました。サーキット内部には贅沢にもゲルマニウム構造を採用。にじみ出る低音をお届けします。熱い星条旗と兄弟マシン。ユニオンジャックドライバー「ロックンロールパーティー RRP-2.0」手放せなくなる逸品です。

RRP-2.0 25,200yen(Include Tax)

- 電源:006P(9V) / ACアダプター ■入出力端子:IN-OUT-DC入力端子(DC9V) ■入カインピーダンス:1MΩ
- 推奨出力負荷:10KΩ以上 ■消費電流:5mA ■外形寸法:82(W)×110(D)×44(H)mm ■重量:350g

HIZUMI

2種類の歪みを同時駆動

「ヒズミ HZM-1.0」は、主としてクリーンアンプでの音造りを目的とした1台です。品種としてはディストーションに値します。心臓部にあたるドライブ回路には、贅沢にも音色の違う2タイプの回路を直列ビルトイン。これは、オーバードライブの後にディストーションを直列に接続した状態を意味します。クリーンアンプ使用時に、どうしても2台のドライブエフェクターで強烈な歪みが必要なシチュエーションもあります。しかし通常の操作では、1台ずつの踏み分けしかできません。しかし、「ヒズミ HZM-1.0」、ワンアクションで、その煩わしい動作を解消しました。また、それぞれのコントロールは、個別の2台分のツマミを同時に駆動させたような特殊な動作をするため、非常に繊細でソフトな歪みから音圧を感じたままキマシマ歪みまでをカバーできるようになったのです。さらに、信号に粘りとサステインを与えつつ、各弦の出力バランスを保てるため、強烈にドライブさせたときのコード音の分離も、申し分ありません。非常に輪郭のある音出に仕上がっております。しかも、レンジツマミによる、特定周波数の移動がかなり繊細に設定できますので、LEVELとHIZUMIの設定で次第で何種類もの歪みサウンドを得ることが可能です。これは、1台にオーバードライブとディストーションを混在させる事により実現したサウンドです。これをHIZUMI。是非お試しください。

HZM-1.0 22,050yen(Include Tax)

- 電源:006P(9V) / ACアダプター ■入出力端子:IN-OUT-DC入力端子(DC9V) ■入カインピーダンス:1MΩ
- 推奨出力負荷:10KΩ以上 ■消費電流:15mA ■外形寸法:82(W)×110(D)×44(H)mm ■重量:350g

HIZUMI

CAN&ゲルマニウムで太く長い歪み

「ヒズミ HZM-1.2」は、姉妹機ヒズミ1.0の贅沢なスペックを継承しつつ、さらに太く、さらに長くを基本理念においた1台です。1.0同様、心臓部にあたるドライブ回路には、贅沢にも音色の違う2タイプの回路を直列ビルトインしていることはもちろんのこと、さらにローノイズ、そして高音域をクリアに出力するため、搭載ICには高品質のCAN「ツケジ」を採用。また、1.0との決定的な違いは、1.0のソリッドな歪みに対し、本機においてはゲルマニウムが生み出す激しくもソフトな歪みを持つ合わせていることです。その結果、最近のディストーション系のマシンはどれも歪みすぎるといふプレイヤーに新たな選択肢をご用意することが出来ました。乾いたオーバードライブから、歪みすぎないヴァンデーンズ風ディストーションをお楽しみいただけます。また、最大の特徴はゲルマニウムマシンの「太くて長い」音が「下がる」という最大の欠点をハイアンプトに設計することで、違和感なく解決しました。HZM-1.0及びHZM-1.2は、シチュエーションによる使い分けをお勧めいたします。よく歪むがマイルドなディストーションをお探しのプレイヤーにはきっと頼りになるはずです。

HZM-1.2 24,150yen(Include Tax)

- 電源:006P(9V) / ACアダプター ■入出力端子:IN-OUT-DC入力端子(DC9V) ■入カインピーダンス:1MΩ
- 推奨出力負荷:10KΩ以上 ■消費電流:15mA ■外形寸法:82(W)×110(D)×44(H)mm ■重量:350g

Jaw Breaker

安定感のある極限の生々しさ

重厚な低音。幾重にも重なる贅沢な倍音。決してピーキーすぎない高音。そんな、ギタリストの切なる思いを一つの箱に閉じ込めました。過剰な音造りを要求される現在の音楽シーン。時には提供されたアンプのみでの音造りやレコーディングの要求。そんな時に威力を発揮するのがこの「ジョーブレイカー JBK-1.0」です。かなりの広音域を設定できるため、ジャンルやシーンを問わず、ソフトでナイーブなクランチオーバードライブから岩をも砕くハードオーバードライブまでをカバーできます。そのアンプがクリーンならばハードに歪ませ、そのアンプが歪んでいるならクリアーにプースターして下さい。PAシステムから出力される抜きの音を体感できるでしょう。当然のことですが、ギターのリバースを絞っての三次元的なプレイも、今や熟練したプレイヤーには要求されます。ご安心下さい。ヴォリュームポットに吸い付くような歪み成分の連続可変も万全です。とにかく大音量でプレイして下さい。クリーンアンプでも、あのチョップをした時の「ポップ」と返ってくる低音を体感できます。また、「ヘヴィー」ツマミをコントロールする事によって、ギタリストの意志通りの使用感に追いつける事も可能です。常に持ち歩きたいギタリストの理想。それが「ジョーブレイカー JBK-1.0」です。

JBK-1.0 25,200yen(Include Tax)

- 電源:006P(9V) / ACアダプター ■入出力端子:IN-OUT-DC入力端子(DC9V) ■入カインピーダンス:470kΩ
- 推奨出力負荷:10KΩ以上 ■消費電流:6mA ■外形寸法:82(W)×110(D)×44(H)mm ■重量:350g

Deep Box

体に感じる迫力の重低音

「ディープボックス DBX-1.0」はエレキギター・エレキベース両方に例える新感覚のエフェクターです。本機の最大の特徴は、コンパクトのエフェクターでは表現できなかった重低音をコントロールする「SUPER LOW」及、弦楽器のサウンドを決定付ける中音域をナチュラルに引き出す「HIGH MID」を調整することによってアンプからの音を瞬時に激変させることです。本機は一般的な接続法以外に様々な接続も可能となっておりますのでプレイヤーのアイデアやセンスによって味違うサウンドキャラクターをクリエイトできます。例えば、大型チューブアンプなどに装備されているSEND/RETURNにも接続できますので、リアンプで作った音をSENDから本機へ接続、「SUPER LOW」で音色に変化を付けた後、パワー部へ送り出します。体験したことのない重低音を体感できるでしょう。この場合、より強烈な重低音を必要とする場合は、ベース用のスピーカーボックスへの接続をお勧めします。ディープボックスの性能をより一層発揮することが期待されます。クリーンアンプを使用して深い音を得たい場合は、ギター→JBK-1.0→DBX-1.0→アンプと接続してください。とてもエフェクターだけで構成されているとは思えない深い歪みサウンドをお楽しみできます。(歪みサウンドの例としてもちろん一般的な接続法でも劇的な効果を生み出します。一例としてベースに接続した場合、バシバシピックアップのサウンドをアクティブピックアップのようなサウンドに加工することも容易です。また、その逆も可能です。アイデア次第でさまざまなシーンを引き立てるブートレグの「魔法の小箱」是非体感してください。

DBX-1.0 27,300yen(Include Tax)

- 電源:006P(9V) / ACアダプター ■入出力端子:IN-OUT-DC入力端子(DC9V) ■入カインピーダンス:1MΩ
- 推奨出力負荷:10KΩ以上 ■消費電流:5mA ■外形寸法:82(W)×110(D)×44(H)mm ■重量:350g

Dee Spider

立体的なサウンド構築

「ディースパイダー DSP-1.0」は、今までには無い強烈に個性的なサウンドを出力可能にします。従来のトレモロユニットのように音量の「大・小」ではなく、スイッチング奏法のような、出力音の「有・無」をコントロールする独自のアイデアです。そのタイミングは、非常に長い周期から、極端に短い周期までを設定できます。また、入力音源はギターやベースに限らず、キーボードやマイクなど、様々な音源にも接続可能です。さらに、エクストラアウトプット(OUT)が2系統あります。(を搭載しておりますので、2台のアンプを使って、断続音を1音づつ左右(同時接続の場合ステレオ出力になります。)交互に出力することも可能です。しかも、ライブステージ等でこそという場面で威力を発揮できるように、ステレオ出力時のエフェクトオフの時はメインアンプへのみの出力(この間のエクストラアウトプットからの音は完全に遮断されます。)されます。そしてエフェクトオンの時に一気にステレオ出力となる効果的な設計です。アイデア次第でモノラル出力でのドリル奏法的なアプローチや、ステレオ出力後の片側に遅れ系エフェクトの接続する等、様々な立体音像の構築が期待できます。まさに音の蜘蛛の巣、ディースパイダー。立体的なサウンド創りを支援します。

DSP-1.0 29,400yen(Include Tax)

- 電源:006P(9V) / ACアダプター ■入出力端子:IN-OUT-DC入力端子(DC9V) ■入カインピーダンス:470kΩ
- 推奨出力負荷:10KΩ以上 ■消費電流:8mA ■外形寸法:82(W)×110(D)×44(H)mm ■重量:350g

Cool-Man II

超低域から超高域・ブースト自由自在。

ミッドブーストの手法として、ペダルワウを任意の場所で止める方法がありますが、エフェクトをオンにし、即座に欲しいアングルにペダルを止めるのは非常に困難です。この「クールマンII COM-2.0」はペダルを使用せずに的確に任意のミッドブーストサウンドを得ることができるエフェクターです。そのサウンドの幅はペダルワウよりも低域・高域共に広く設定できるように設計してありますので、ペダルワウでは表現できなかった帯域でのブーストが可能です。低域から中音域をブーストすればワウペダルを途中で固定したようなミッドレンジブースト、高域をブーストすればエイジャーのうねりを高域部で固定したような、摩訶不思議トレブルプースターとして、非常にユニークなアローチも可能です。「クールマンII COM-2.0」はそのサウンドコントロールのシンプルさも魅力的です。まずSPECTRUMツマミで強調させたい帯域を決定します。続いてEDGEツマミで強調させる帯域を決定します。最後にMASTERツマミでエフェクト音の出力音量を決定します。たったこれらの3アクションの組み合わせで、プレイヤーの求めるサウンドの表現力が飛躍的に向上します。超低域から超高域・ブースト自由自在。それが「クールマンII COM-2.0」です。

COM-2.0 24,150yen(Include Tax)

- 電源:006P(9V) / ACアダプター ■入出力端子:IN-OUT-DC入力端子(DC9V) ■入カインピーダンス:1MΩ
- 推奨出力負荷:10KΩ以上 ■消費電流:25mA ■外形寸法:82(W)×110(D)×44(H)mm ■重量:350g

SPIRAL

螺旋の七変化・月齢の如く



ブートレグのフェイスマシンが登場しました。本気で納得のいく「心地よい揺れ」を追い求め、ついに完成したのがこの「スパイラル SPL-1.0」です。ジャンルを選ばない幅広いフェイスサウンドはまさに圧巻で、とても薄いフェイスインジックから、かなり効きの深いフェイスジックまで、まさに月の満ち欠けの如く「変幻自在な表情」を表現できます。クリーンアンプからの出音を活字で表現するならば、アンプの中で音が鳴っているというのではなく、仮に球状のスピーカーが存在するとして、そのスピーカーがアンプの前で自己回転運動をしながらかつとも途切れることなく螺旋状に運動しているようなサウンドが存在します。活字で表現すると少々オーバーに感じられるかもしれませんが、一度お試しくださいと納得して頂ける逸品です。一般的にフェイスマシンのデメリットとして、踏み込んだ瞬間の音量の増幅や極端な低下、また歪みということが挙げられるようですが、スパイラルはその弱点も克服しています。当然、歪んだアンプとの相性もよく、音の輪郭を不透明にするのではなく揺れを表現することが可能です。また、スピードコントロールに至っては、録音や本番に実質的に必要となる中・低速のレンジに着目しました。そのため、シビアな中速のスピードをより細かく設定できるように、低速～中速のコントロール範囲を広くとった設計となっております。いつの時代も色褪せることのない「揺れ」をお届けするのはミントグリーンのスパイラル SPL-1.0です。

SPL-1.0 27,300yen(Include Tax)

■電源:006P(9V) / ACアダプター ■入出力端子:IN-OUT-DC入力端子(DC9V) ■入カインピーダンス:1MΩ
■推奨出力負荷:50KΩ以上 ■消費電流:18mA ■外形寸法:82(W)×110(D)×44(H)mm ■重量:350g

COMP-DX

ブースト効果で驚異的なロングサスティーン獲得



コンプレッサー、「一般的な解釈だと入力音を均一化してサスティーンを得る道具。また、できるだけサウンドを変化させない。」…少し寂しくないですか?そんな「コンプレッサー」という地味なイメージを一掃し、積極的なサウンドメイキングを表現するのが「コンプレッサー CPX-1.0」なのです。エフェクターそのもの、やはり存在感のあるアクセントを効かせたシーンに使用したいですよね。コントロールは非常にシンプルですが、効果は絶大です。通常のコンプレッサーとして、音の立ちをそるえるリミット効果の実力はもちろんのこと、この「コンプレッサー CPX-1.0」はピッキングの攻撃をしほり出すアタックブーストの効果も魅力です。エレクトリックギターからの微弱な出力信号全体にグルーヴ感を与え、「ワイルドブースター」として使用することも可能です。是非、クリーンアンプと接続してブースターとしてもご利用ください。また、本機の後には歪みエフェクターを接続すると驚異的なロングサスティーンも獲得できます。気になる、ピックアップとの相性ですが、シングルコイル/ハムバッキング共に効果は良好で、カッティングのみならず単音弾きやミュート奏法にも効果的です。コンプレッサーが手放せないページにも断然お奨めです。かかりを深くしてもしっかり「音全体」の前へ押し出し、埋められることなくクリーンな太いサウンドを提供します。緑の下のコンプレッサーから積極的なサウンドメイキングの時代へ。普段コンプレッサーを敬遠しがちなプレイヤーにも胸を張ってお勧めできるのが「コンプレッサー CPX-1.0」です。

CPX-1.0 18,900yen(Include Tax)

■電源:006P(9V) / ACアダプター ■入出力端子:IN-OUT-DC入力端子(DC9V) ■入カインピーダンス:1MΩ
■推奨出力負荷:10KΩ以上 ■消費電流:7mA ■外形寸法:82(W)×110(D)×44(H)mm ■重量:350g

Dr. Mid Rich

直感的に操作できるミッドブースター



弦楽器にとっても重要な音域それは「中音域」と私達は考えます。様々なプレイヤーが様々な楽器を駆使し、個々の特徴ある音を運るべく日夜努力をされていることは言うまでもありません。もし、あなたが現在お使いのギターやアンプの本当の能力を探さされていないとしたらどうしますか? もちろん現状のサウンドは大切に維持しつつ「ほんの少し」何かを「足す」ことによりもう少し向こう側へ行けるとしたらどうしますか? そくていになるのが中音域です。もちろん高域、低域も重要ですが、兩者を固定した状態で中音域をコントロールするだけでアンプから出力される表情は非常に多彩です。本機「Dr. Mid Rich DMR-1.0」はその重要な中音域を細かく調整するお抱え主治医のようになっています。コントロールも2つと、直感的に操作できるため、あなたが無意識のうちに関心して来た楽器本来の潜在能力を開放し、容易に目的のサウンドへたどり着くことができる。仕様面も実戦で有効な並列2系統出力を標準装備したことに応用範囲も格段に向上しました。例えば、片側をアンプ、もう片側をチューナーへ接続。また、両側共にアンプへ接続し、ステージ上の音圧を上げることもできます。チューブアンプに接続すれば更に微妙な違いを感じることも出来る大のミッドコンローラーです。一度踏み入ると抜け出せない。そんな音楽をドクターミッドリッチがお届け致します。尚、ご使用の際は使用上の注意をよく読んで、用法・要領を守って正しくお使い下さい。

DMR-1.0 21,000yen(Include Tax)

■電源:006P(9V) / ACアダプター ■入出力端子:IN-OUT-DC入力端子(DC9V) ■入カインピーダンス:1MΩ
■推奨出力負荷:10KΩ以上 ■消費電流:25mA ■外形寸法:82(W)×110(D)×44(H)mm ■重量:350g

Buff & Loop

エフェクターの機能を向上させるエフェクター



本機の最大の特徴。既存のエフェクターに改造を加えずに「出力音量を変化」し「回路設計」によりエフェクターに「トーン回路を追加」複数のエフェクターを同時にON/OFFするなど、現在お使いのエフェクターシステムの可能性を更に広げ、画期的なエフェクターです。
【出力音量のコントロール】本機はSEND/RETURN出力が搭載されています。そのルーブに例えばエフェクターのブースターを接続すればブースターの最大ブースト量は、既に決まっています。Buff&Loop B&L-1.0のBALANCEコントロールを調整する事でさらにブーストすることになります。また、レベルのマッチングを容易です。アクティブなプレイヤーに見られるように「ゲイン」はルーブに挿入しBALANCEコントロールで出力側のマッチングを行います。
【トーン回路の追加】同じSEND/RETURNに接続されたエフェクターにスタートーンを追加することができます。例えば、トーンコントロールの無いオーブ(トーンコントロール)に接続すればトーンコントロールで出力側のマッチングを行います。追加しなくても問題なく使用できます。ルーブに接続されたエフェクターを接続した場合は、マスターエフェクターにトーンを追加し、トーンコントロールに接続されたエフェクターのトーンを調整することができます。トーンコントロールはルーブに接続されたエフェクターのトーンを調整する機能は未知の音色に加工して使用します。
【微妙なニュアンスを捉える4種類のトーンコントロール】TONEコントロールは、リアンプの調整で簡単に済みます。また、T-MODEE選定により、微妙なトーンの掛か具合を種類のの中から選択出来ます。左から順に、かなりこもるほどどまどまらなトーン、原音の音質劣化を低く抑えるトーン、掛か具合はマナー方向のみ、設計しております。
【ルーブの応用】複数のエフェクターのON/OFFをワンアクションでコントロールできます。1/16(1/8)音が気になるエフェクターをルーブに接続すれば、Buff&Loop B&L-1.0のクアットロValvole(1/8)音を発生させることができます。
【IN/OUTのみでの接続】ON/OFF非同期に設定する、高品質なバッファとして単体駆動します。BALANCEの設定次第では、MUTEエフェクター(ゼロ設定)やフェットボリューム(アルペジオ奏法で有効)も、ボリュームブースターとしてもお使いいただけます。
いかがでしょうか。このBuff&Loop B&L-1.0で無敵の可能性を手に入れませんか?

B&L-1.0 24,150yen(Include Tax)

■電源:006P(9V) / ACアダプター ■入出力端子:IN-OUT-LOOP-IN-LOOP-OUT-DC入力端子(DC9V) ■入カインピーダンス:1MΩ
■推奨出力負荷:10KΩ以上 ■消費電流:25mA ■外形寸法:82(W)×110(D)×44(H)mm ■重量:350g

HIZUMI Quattro Valvole

問答無用のハイゲインな重低音



歪んでいないアンプのサウンドに劇的な効果をもたらすHIZUMIシリーズにより新しいデバイス「クアットロ・バルボール HZM-2.0」が登場です。クアットロ(4つの)バルボール(真空管)の名称から連想できるそのサウンドは、まさに重低音に焦点を当てた大型チューブアンプ並の「太くて重い伸び」また「単に重いだけでなく分離の良いHIZUMI」をお届けします。新搭載のBOTTOMコントロールを右に回すほど刺激的な低音を増幅することができます。よりプレイヤーの満足度を高めます。もちろん小型アンプでの使用も可能ですが、大音量でのプレイを想定した設計のため、最低50Wクラス以上のアンプとの接続をお勧めします。スピーカーの容量によっては十分に低音を再生できない場合もありますが、ベースアンプに接続すると、低音再生能力が高いため、より本機を持つポテンシャルを高めることとなります。本機は、接続するギター自身の持つウットマテリアルやハードウェアが奏でるサウンドを損ねることなく、かなり過激な重低音をお届けしますが、ハウリングに強い点も満足度の高いポイントになっております。常に進化を追い求めるプレイヤーにお届けするHIZUMIシリーズ第3弾「HIZUMI QUATTRO VALVOLE HZM-2.0」
It's satisfaction!!

HZM-2.0 25,200yen(Include Tax)

■電源:006P(9V) / ACアダプター ■入出力端子:IN-OUT-DC入力端子(DC9V) ■入カインピーダンス:470kΩ
■推奨出力負荷:10KΩ以上 ■消費電流:16mA ■外形寸法:82(W)×110(D)×44(H)mm ■重量:350g

Que-Wave

エモーショナルなオートフィルター



プレイヤーの求めるオートフィルターサウンドを素早く導きたい。そんな発想からこの「キュー・ウェーブ QEW-1.0」の開発が開始されました。入力媒体が替わればその出力音も変わる。しかしプレイヤーには「維持したい音」があるはず。歪みサウンドもさることながらワウサウンドもかなり好みが分かれる音です。例えばTONE回路の搭載により、サウンドメイクが難しくなってしまうワウサウンドからピーキーなワウサウンドまで表現することができるようになりました。「もっと丸くしたい」「もっと太くしたい」などの表現者ならではの様々な感情の自由度をよりリアルにお届けすることに成功したのです。さらにMASTERコントロールの調整で、フィルター系特有の聴感上の埋もれた感じを解消することにも成功しました。ドライブアンプに接続した場合は、ワウブーストの効果を得ることが出来ますのでロングトーンもお手のものです。話すような空間、歌うようなワウトーン。ピッキングに対する追従性が高いのできつと個性的なサウンドメイクのお役に立てると思います。

さあ、あなたのプレイに新しい波を参加させてみてはいかがでしょうか?

QEW-1.0 25,200yen(Include Tax)

■電源:006P(9V) / ACアダプター ■入出力端子:IN-OUT-DC入力端子(DC9V) ■入カインピーダンス:1MΩ
■推奨出力負荷:10KΩ以上 ■消費電流:18mA ■外形寸法:82(W)×110(D)×44(H)mm ■重量:350g

Blues#Nine

吼える・泣かせる一網打尽



エレクトリックギターによる名演。それはもはや現代音楽の歴史的な作品に数多く刻まれています。聴覚へ伝達されたサウンドが脳へ到達し、人それぞれ五感が刺激される。音による感動を覚えたプレイヤーがまた新たな感動を人々へ与える。これぞ音楽。音を楽しむことではないでしょうか。音楽は時に人の人生さえも変えてしまうほどの崇高な文化の産物です。そんな感動には様々な答えがあります。響き・太さ・長さ・調和。そんな様々な感情で感動を伝える演出を支援するため、「ブルースシャープナイン BLN-1.0」が誕生しました。開発発想は「これぞあの音を出す」ではなく「これを使うからあの音が出る」を目標にしました。それはプレイヤーの力と木が持ち合わせている力を融合させることです。それはどんな音が出るのか? 答えは全て異なります。喋る様な音、叫ぶ様な音、泣く様な音、笑う様な音、吼えるような音。こう表現すると混同してしまうかもしれませんが、一つ確かな答えがあります。それは「一人一人のプレイでその一本一本のギターの音を出せる」ということです。わかりやすく言い換えると、人は違う「唯一無二」の個性的な自分の音を手に入れるのです。まさにプレイヤーが全身から下す指令に「歪み」を加えることにより、その瞬間の音の表情を的確に表現できるとお伝えすれば良いでしょうか。吼えたい時に吼え、泣きたい時に泣く。そんな感情派のプレイヤーに適切な道具なのです。普段より深いトーンで感動のプレイをお届け下さい。

BLN-1.0 25,200yen(Include Tax)

■電源:006P(9V) / ACアダプター ■入出力端子:IN-OUT-DC入力端子(DC9V) ■入カインピーダンス:220kΩ
■推奨出力負荷:10KΩ以上 ■消費電流:10mA ■外形寸法:82(W)×110(D)×44(H)mm ■重量:350g

EDGE WILD

問題解決の最短距離



「エッジ ワイルド EDW-1.0」は、独自の開発 SOLID TUBE 回路を搭載する事により真空管ならではの低音のバウンド感の再現に成功した多機能歪みエフェクターです。種別にはプリアンプ、オーバードライブ、ブースターとなります。ヘッドアンプを操作する感覚でお使い下さい。クリーンアンプに接続すれば、エッジの効いたリフやバックキに最適なオーバードライブとして使用可能。バックキ、リードサウンド共に、時代やジャンルを問わない幅広い守備範囲を誇り、ハムバックキはもちろん、シングルコイルでも粘りを見せるリードトーンをお届けします。現代風リードトーンはもちろん、ブルース系から70年代クロスオーバー的なサウンドも出力可能です。歪んだアンプに接続すればローエンドを大切にブースターとしてお使いいただけますので、ブースト時の低音の減少にお困りの方に最適です。また、近年多様化されてきたドロップチューニング時の暴れるバックキのエッジ補強にも威力を発揮します。ライブ時の「何を弾いてもか解らない」という問題を抱えるプレイヤーには最適です。解決法は見つかりましたか? これらが SOLID TUBE 回路搭載のエッジ ワイルド EDW-1.0 の実力です。

EDW-1.0 24,150yen(Include Tax)

■電源:006P(9V) / ACアダプター ■入出力端子:IN-OUT-DC入力端子(DC9V) ■入カインピーダンス:1MΩ
■推奨出力負荷:10KΩ以上 ■消費電流:10mA ■外形寸法:82(W)×110(D)×44(H)mm ■重量:350g